

### Ⅲ 国内産麦の生産と流通の動向

#### 1 国内産麦の生産状況

##### (1) 小麦

###### ① 作付面積

近年の国内産小麦の作付面積は23万ha程度で推移しています。令和7年産の作付面積は、北海道で13.4万ha、都府県で9.6万ha、全国で23.0万haとなり、前年産並みとなっています（図Ⅲ－1）。

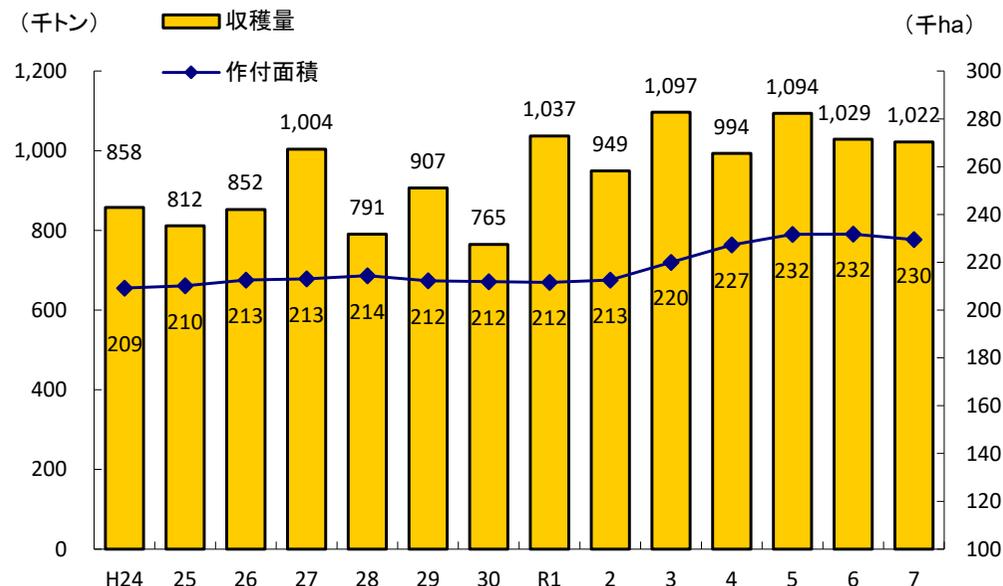
###### ② 収穫量

令和7年産の国内産小麦の収穫量は、主に九州において、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、北海道において、高温及び小雨により細麦傾向となったこと等から、北海道で4.9万トン減少（▲7%）、都府県では4.2万トン増加（+13%）、全国では0.7万トン減少（▲1%）の102.2万トンとなり（図Ⅲ－1）、全国の10a当たりの収量は445kg/10aと前年産並みとなりました。

###### ③ 小麦の作付品種の状況

各産地の気候条件や用途等に適した品種が作付されており、令和6年産では日本麺用では「きたほなみ」、「シロガネコムギ」、「さとのそら」、パン・中華麺用では「ゆめちから」、「春よ恋」といった品種が上位を占めています（表Ⅲ－1）。

図Ⅲ－1 国内産小麦の収穫量と作付面積の推移



資料：農林水産省「作物統計」、令和7年産の数値は概算値。

表Ⅲ－1 小麦の主な作付品種(令和6年産)

品種名	育成年	作付面積(千ha)	割合	主な作付地域
きたほなみ	平成19年	89.0	39%	北海道
ゆめちから	平成20年	22.7	10%	北海道
シロガネコムギ	昭和49年	16.2	7%	九州、近畿
春よ恋	平成11年	15.3	7%	北海道
さとのそら	平成21年	14.8	6%	関東、東海
上位5品種計		158.0	68%	
小麦作付面積	—	231.2		

資料：農林水産省「作物統計」、品種毎の面積は農林水産省農産局調べ

注：品種の育成年については、シロガネコムギは農林認定が行われた年、それ以外の品種は出願公表が行われた年としている。

## (2) 大麦及びはだか麦

### ① 作付面積

近年、国内産大麦及びはだか麦の作付面積は約6万haと横ばいで推移しており、令和7年産は前年産と比較すると、二条大麦は前年産並み、六条大麦は900ha減少（▲5%）、はだか麦で250ha減少（▲5%）となり、全体では950ha減少（▲1%）の6.4万haとなりました（図Ⅲ－2）。

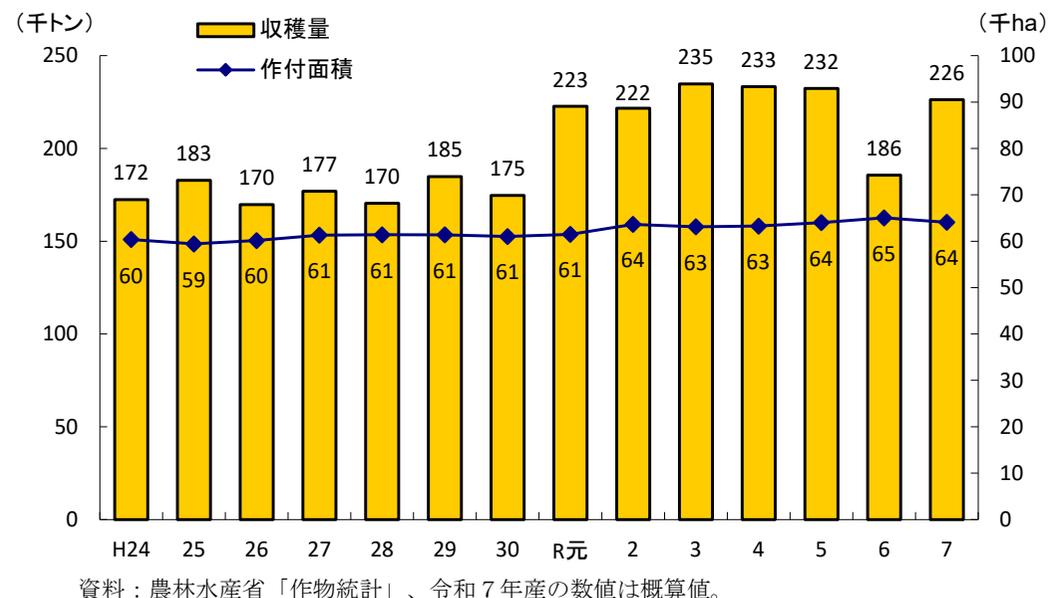
### ② 収穫量

令和7年産の大麦及びはだか麦の収穫量は、前年産と比較すると増加しました。麦種ごとに見ると、二条大麦は、主に九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したこと等から3.3万トン増加（+28%）、六条大麦は、主産地である福井県において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから0.4万トン増加（+7%）、はだか麦は、主に四国・九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから0.4万トン増加（+32%）となり、大麦及びはだか麦の収穫量は合計で4.1万トン増加（+22%）の22.6万トンとなりました（図Ⅲ－2）。

### ③ 大麦及びはだか麦の作付品種の状況

各産地の気候条件や用途等に適した品種が作付されており、令和6年産では二条大麦は食用及び焼酎醸造用の「はるか二条」、六条大麦は主食用や麦茶用の「ファイバースノウ」、はだか麦は麦味噌等用の「ハルヒメボシ」といった品種が上位を占めています（表Ⅲ－2）。

図Ⅲ－2 国内産大麦及びはだか麦の収穫量と作付面積の推移



表Ⅲ－2 大麦及びはだか麦の主な作付品種(令和6年産)

麦種	品種名	育成年	作付面積 (千ha)	割合	主な作付地域
二条大麦	はるか二条	平成25年	11.1	27%	四国、九州
	ニューサチホゴールド	平成27年	8.8	22%	関東
	サチホゴールド	平成18年	7.7	19%	九州、関東、中国
六条大麦	ファイバースノウ	平成13年	11.3	61%	北陸、近畿、関東
	シュンライ	平成2年	2.7	15%	関東、東北
	カシマゴールド	平成22年	1.2	6%	関東、東海
はだか麦	ハルヒメボシ	平成24年	1.6	31%	四国
	イチバンボシ	平成4年	1.2	22%	九州
	ハルアカネ	令和2年	0.6	12%	四国、九州
大麦・はだか麦作付面積		—	64.2		

資料：農林水産省「作物統計」、品種毎の面積は農林水産省農産局調べ

注：品種の育成年については、シュンライ、イチバンボシは農林認定が行われた年、それ以外の品種は出願公表が行われた年としている。

## 2 国内産麦の品質状況

### (1) 農産物検査

- ① 令和7年産の小麦について、全国の1等比率は、84.4%（令和7年10月末時点）となっています（表Ⅲ-3）。
- ② 令和7年産の普通小粒大麦は71.6%、普通大粒大麦は78.7%、普通裸麦は74.6%、ビール大麦は0.2%の1等比率になっています（表Ⅲ-3）。

### (2) 品質評価

たんぱく質や灰分の含有率等に基づく品質評価結果については、令和7年産の小麦では、Aランクが89.0%となっており、過去5年平均（Aランク比率92.7%）と比べ、3.7ポイント低くなっています。

また、令和7年産の大麦・はだか麦では、Aランクが70.6%となっており、過去5年平均（Aランク比率77.7%）と比べ、7.1ポイント低くなっています（表Ⅲ-4）。

表Ⅲ-3 国内産麦の1等比率の推移

（単位：%）

年産	令和2	3	4	5	6	7	5年平均 (令和2～6年産)
普通小麦	88.5	84.1	83.3	85.6	87.1	84.4	85.7
北海道	89.9	89.7	83.0	90.5	92.5	87.9	89.2
都府県	85.4	72.2	83.9	75.7	74.2	77.3	78.2
普通小粒大麦	74.5	63.1	76.8	70.8	63.9	71.6	70.1
普通大粒大麦	82.8	79.8	78.6	76.4	61.6	78.7	76.2
普通はだか麦	82.5	47.2	57.2	59.0	35.0	74.6	57.3
ビール大麦	0.2	1.2	0.0	0.1	0.0	0.2	0.3

注：1) 各年産最終（翌年3月末日現在）の値である。ただし、令和7年産は、令和7年10月末時点の値である。  
2) 強力小麦の検査数量を含む値である。

表Ⅲ-4 令和7年産麦の品質評価結果

（単位：%）

	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Aランク 過去5年平均 (令和3～令和7年産)
小麦	89.0	5.2	5.7	0.1	92.7
大麦・ はだか麦	70.6	12.8	14.4	2.2	77.7

資料：農林水産省調べ。

### (参考) 麦の品質区分

- Aランク：評価項目の基準値を3つ以上達成し、かつ、許容値を全て達成している麦  
 Bランク：評価項目の基準値を2つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦  
 Cランク：評価項目の基準値を1つ達成し、かつ、許容値を全て達成している麦  
 評価項目の基準値を2つ以上達成しているものの、許容値を達成していない麦  
 Dランク：A～Cランクのいずれにも該当しない麦

#### 【評価項目】

- ①小麦〔・日本麺用、パン・中華麺用（たんぱく、灰分、容積重、フォーリングナンバー）  
 ・醸造用（たんぱく3項目、容積重）  
 ②二条大麦〔・麦茶用以外（容積重、細麦率、白度、正常粒率）  
 ・麦茶用（たんぱく3項目、細麦率）  
 ③六条大麦・はだか麦〔・麦茶用以外（容積重、細麦率、白度、硝子率）  
 ・麦茶用（たんぱく3項目、細麦率）

### 3 国内産麦に対する支援

令和8年度は、経営所得安定対策等の対策のうち、主に畑作物の直接支払交付金と水田活用の直接支払交付金により、国内産麦に対する支援が行われます。

また、産地と実需が連携して行う麦・大豆の国産化を推進するため、国産小麦・大豆供給力強化総合対策及び新基本計画実装・農業構造転換支援事業等の関連事業による支援を行います。

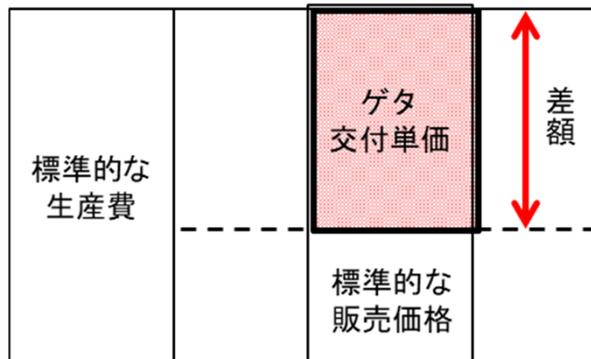
#### (1) 畑作物の直接支払交付金

畑作物の直接支払交付金として、麦を生産する農業者に対し、標準的な生産費と標準的な販売価格の差額分を直接交付することとしています。

支払いは、当年産の麦の品質及び生産量に応じて交付する数量払を基本とし、当年産の麦の作付面積に応じて交付する面積払（営農継続支払）を数量払の先払いとして交付する仕組みにしています。

数量払は、播種前に締結した農協等との出荷契約や、実需者との販売契約に基づき出荷・販売された数量を交付対象とし、品質に応じた交付単価を設けることで、需要に応じた生産と品質に対する営農努力を適切に反映させる仕組みになっています（表Ⅲ－5）。

【交付単価のイメージ】



表Ⅲ－5 畑作物の直接支払交付金の麦の交付単価

【令和8年産から適用】

#### ①数量払（品質に応じた単価）

(円/単位数量)

品質区分 (等級/ランク)		1等又は1等相当				2等又は2等相当			
		A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (パン・中華麺用品種) (60kg当たり)	課税事業者向け単価	7,420	6,920	6,770	6,710	6,260	5,760	5,610	5,550
	免税事業者向け単価	7,950	7,450	7,300	7,240	6,790	6,290	6,140	6,080
小麦 (パン・中華麺用品種以外) (60kg当たり)	課税事業者向け単価	5,120	4,620	4,470	4,410	3,960	3,460	3,310	3,250
	免税事業者向け単価	5,650	5,150	5,000	4,940	4,490	3,990	3,840	3,780
二条大麦 (50kg当たり)	課税事業者向け単価	5,050	4,630	4,510	4,460	4,190	3,770	3,640	3,590
	免税事業者向け単価	5,330	4,910	4,790	4,740	4,470	4,050	3,920	3,870
六条大麦 (50kg当たり)	課税事業者向け単価	6,060	5,640	5,510	5,460	5,030	4,610	4,490	4,440
	免税事業者向け単価	6,440	6,020	5,890	5,840	5,410	4,990	4,870	4,820
はだか麦 (60kg当たり)	課税事業者向け単価	9,300	8,800	8,650	8,560	7,730	7,230	7,080	7,000
	免税事業者向け単価	9,860	9,360	9,210	9,120	8,290	7,790	7,640	7,560

(参考)

【課税事業者向け平均交付単価（括弧内は免税事業者向け平均交付単価）：

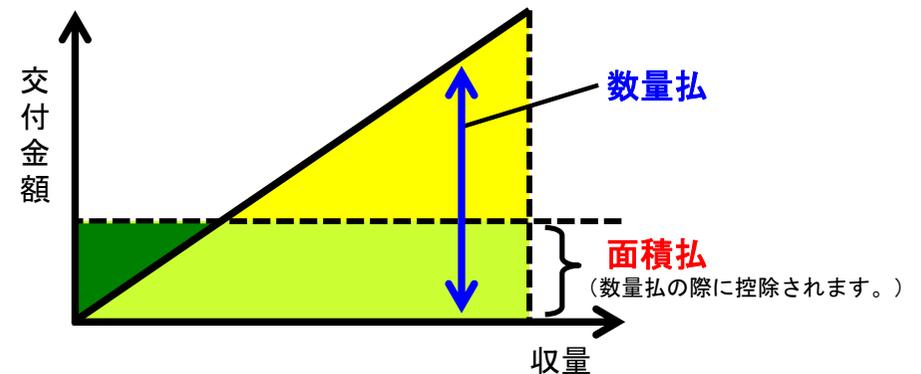
小麦:5,590 (6,000) 円/60kg、二条大麦:4,900 (5,220) 円/50kg、

六条大麦:5,710 (6,110) 円/50kg、はだか麦:8,330 (8,850) 円/60kg】

#### ②面積払

当年産の作付面積に応じて交付 2万円/10a

【畑作物の直接支払交付金のイメージ】



## (2) 水田活用の直接支払交付金

食料自給率・自給力の向上を図るため、水田で麦を生産する農業者に対しては、畑作物の直接支払交付金に加え、水田活用の直接支払交付金（3.5万円/10a）を直接交付することとしています（表Ⅲ－6）。

## (3) 畑地化促進事業

水田を畑として利用し、畑作物の本作化に取り組む農業者に対して、生産が安定するまでの一定期間、継続的に支援します（表Ⅲ－7）。

注：畑地化とは、水田活用の直接支払交付金の交付対象となる交付対象水田から除外する取組をいいます（地目の変更を求めるものではありません）。

## (4) 畑作物産地形成促進事業

産地・実需協働プランに参画する農業者が、実需者ニーズに対応するための畑作物の導入・定着に向けた取組や生産性向上等の技術導入を行う場合に、取組面積に応じて支援します（表Ⅲ－8）。

注：本支援の対象となった面積は、令和8年度水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成（麦、大豆、飼料作物（子実用とうもろこし））の対象面積から除きます。

表Ⅲ－6 水田活用の直接支払交付金の交付単価

戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a

※このほか、「産地交付金」により、地域で作成する水田収益力強化ビジョンに基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。

表Ⅲ－7 畑地化促進事業の支援単価

対象作物	畑地化支援	定着促進支援
畑作物 （麦、大豆、飼料作物（牧草等）、子実用とうもろこし、そば、野菜、果樹、花き等）	7万円/10a	2.0万円/10a×5年間 または 10.0万円/10a（一括）

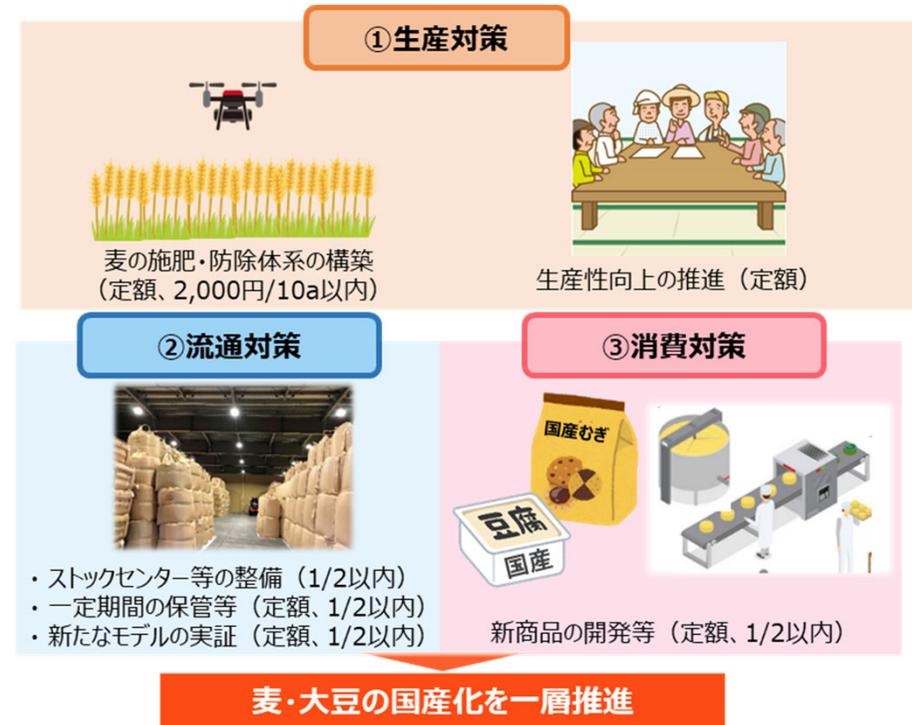
表Ⅲ－8 畑作物産地形成促進事業の支援単価

対象作物	交付単価
麦、大豆、高収益作物（加工・業務用野菜等）、子実用とうもろこし	4万円/10a

## (5) 小麦・大豆の国産化の推進

産地と実需が連携して行う小麦・大豆の国産化を推進するため、施肥・防除体系の構築等による生産性向上や増産を支援するとともに、国産小麦・大豆の安定供給に向けたストックセンターの再編集約・合理化や民間主体の一定期間の保管等、新たな生産・流通モデルづくりや更なる利用拡大に向けた新商品開発等を支援します（図Ⅲ－3）。

図Ⅲ－3 小麦・大豆の国産化の推進のイメージ



## 4 国内産食糧用麦の流通動向

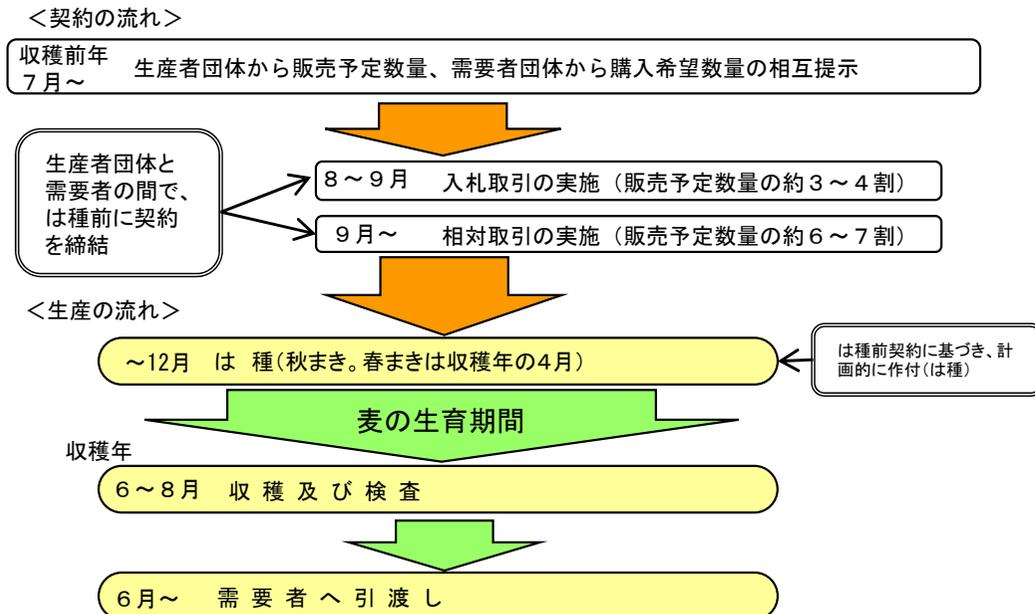
### (1) 取引の概要

国内産食糧用麦は、加工原料としての商品特性から、需要に応じて計画的に生産できるよう、は種前契約に基づく取引が行われています。

まず、取引の指標となる透明性のある適正な価格を形成するため、は種前に販売予定数量の3～4割（具体の比率は民間流通地方連絡協議会の協議を踏まえ決定）について入札が行われます。残りは相対取引が行われており、その価格については、入札で形成された指標価格（落札加重平均価格）を基本として、取引当事者間で決められています（図Ⅲ－4）。

また、取引を円滑に進めるため、生産者、需要者等で構成される民間流通連絡協議会において、取引に必要な情報交換、取引に係る基本事項の見直し等が行われています（表Ⅲ－9）。

図Ⅲ－4 国内産食糧用麦の基本的な流通フロー



表Ⅲ－9 国内産食糧用麦の入札の仕組み

項目	概要	見直しの変遷
実施主体	一般社団法人 全国米麦改良協会	
実施時期	は種前に2回実施（8～9月）	平成13年産から1回→2回へ見直し
上場数量	産地銘柄別に販売予定数量が小麦3千トン以上、大麦・はだか麦1千トン以上の銘柄について、その30～40%を上場（ほかに希望上場あり）	令和元年産から30%→30～40%へ見直し
基準価格	小麦は前年産の落札加重平均価格に当年産の入札実施時点での外国産麦の政府売渡価格の変動率を乗じた価格、大麦・はだか麦は前年産の落札加重平均価格	小麦の外国産麦との連動は平成24年産から実施
値幅制限	基準価格の±10%	小麦 平成12年産～16年産：±5% 平成17年産～21年産：±7% 平成22年産：±10% 平成23年産：±30% 平成24年産～：±10% 大麦・はだか麦 平成12年産～18年産：±5% 平成19年産～21年産：±7% 平成22年産：±10% 平成23年産：±15% 平成24年産～：±10%
取引価格の事後調整（小麦のみ）	外国産食糧用小麦の政府売渡価格の改定（4、10月）に合わせて、は種前に入札又は相対により契約された価格に外国産食糧用小麦の政府売渡価格の変動率を乗じて取引価格を改定	平成23年産から実施
申込限度数量	買い手別に 上場数量×買受実績シェア×1.45	小麦は平成17年産から、大麦及びはだか麦は平成19年産から 1.35→1.45へ見直し
相対取引	入札で形成された指標価格を基本に、生産者団体と需要者の間で協議・決定	平成19年産から過去の実績シェアに基づく取引ルールを廃止
再入札	第1回入札及び第2回入札において、落札残数量が発生した場合は、売り手の希望により再度入札に付すか相対による契約を行うかいずれかの方法をとることができる。	平成25年産から売り手の申し出により、再入札における入札の値幅を設定できること等を規定。

※平成26年産から、国内産麦の需要拡大を図るため、地域の食文化のブランド化等による高付加価値化の取組等に対し、安定的な原料供給が可能となる需要拡大推進枠を導入。

## (2) 流通の動向

令和7年産の国内産食糧用小麦の供給量は、前年産から約1万トン減少し、約93万トンとなっています。

また、国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量は、前年産から約4万トン増加し、約14万7千トンとなっています(表Ⅲ-10)。

生産者側から提示された令和8年産麦の販売予定数量は、国内産食糧用小麦で約98万トン、国内産食糧用大麦及びはだか麦で約14万5千トンとなっています。

一方、需要者側から提示された令和8年産麦の購入希望数量は、国内産食糧用小麦で約89万9千トン、国内産食糧用大麦及びはだか麦で約20万8千トンとなっています(表Ⅲ-11)。

### 表Ⅲ-10 国内産食糧用麦の供給量

(単位：千トン)

年産	平成28	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7 (見込)
小麦	734	845	703	967	871	1,012	913	1,007	939	925
大麦・はだか麦	92	106	103	141	143	149	152	145	109	147

注：集荷団体からの聞き取り数量である。

### 表Ⅲ-11 国内産食糧用麦の販売予定数量及び購入希望数量の推移

(単位：千トン、%)

	年産	平成27	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7	8
小麦	販売予定数量①	880	820	846	834	824	809	864	887	955	968	996	980
	購入希望数量②	802	834	875	880	863	880	813	796	843	873	886	899
	①-②	78	▲14	▲29	▲46	▲39	▲72	51	91	111	95	109	81
	(①-②) / ① (%)	8.9	▲1.8	▲3.4	▲5.5	▲4.7	▲8.9	5.9	10.3	11.7	9.9	11.0	8.2
大麦・はだか麦	販売予定数量①	112	113	112	108	108	120	129	129	135	145	151	145
	購入希望数量②	149	145	138	148	130	123	93	142	175	188	198	208
	①-②	▲37	▲32	▲26	▲39	▲22	▲3	35	▲14	▲40	▲43	▲46	▲63
	(①-②) / ① (%)	▲33.0	▲28.4	▲23.4	▲36.3	▲20.4	▲2.2	27.5	▲10.5	▲29.6	▲29.5	▲30.7	▲43.5

資料：民間流通連絡協議会調べ。

注：四捨五入の関係で差し引きが一致しないことがある。

5 国内産食糧用麦の価格の動向

(1) 令和8年産の入札の概要

令和8年産麦の入札は、第1回は令和7年9月11日に、第2回は9月25日に実施されました。

麦種別の入札結果をみると、小麦は、上場数量約25万3千トンのうち約23万1千トンが落札（落札率91.5%）され、落札価格は62,554円/トン（対前年産比99.8%）となりました。

小粒大麦は、上場数量約1万2千トンの全量が落札（落札率100.0%）され、落札価格は52,759円/トン（対前年産比108.7%）となりました。

大粒大麦は、上場数量約1万4千トンのほぼ全量が落札（落札率98.9%）され、落札価格は59,913円/トン（対前年産比111.3%）となりました。

はだか麦は、上場数量約2.7千トンのほぼ全量が落札（落札率95.9%）され、落札価格は41,629円/トン（対前年産比109.8%）となりました（表Ⅲ-12）。

表Ⅲ-12 国内産食糧用麦の入札結果の推移

年産		平成27	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7	8
小麦	上場数量(トン)①	234,010	213,360	221,380	218,500	214,200	207,010	221,790	227,160	246,850	248,190	256,650	252,890
	落札数量(トン)②	192,240	201,140	214,060	210,560	204,420	200,480	166,970	168,150	217,360	224,800	231,340	231,350
	落札率②/①	82.2%	94.3%	96.7%	96.4%	95.4%	96.8%	75.3%	74.0%	88.1%	90.6%	90.1%	91.5%
	落札価格(円/トン)	49,770	54,164	51,570	53,624	61,714	65,073	56,717	53,795	69,808	72,273	62,658	62,554
	対前年産比	100.9%	108.8%	95.2%	104.0%	115.1%	105.4%	87.2%	94.8%	129.8%	103.5%	89.8%	99.8%
小粒大麦 (六条大麦)	上場数量(トン)①	11,930	12,210	12,200	11,750	11,040	11,130	11,550	13,310	13,810	14,000	13,900	12,140
	落札数量(トン)②	11,830	12,090	12,200	11,440	10,940	11,040	10,930	12,440	13,770	12,110	13,650	12,140
	落札率②/①	99.2%	99.0%	100.0%	97.4%	99.1%	99.2%	94.6%	93.5%	99.7%	86.5%	98.2%	100.0%
	落札価格(円/トン)	47,595	47,565	46,880	46,708	46,560	46,670	46,480	45,860	45,741	46,250	48,519	52,759
	対前年産比	102.8%	99.9%	98.6%	99.6%	99.7%	100.2%	99.6%	98.7%	99.7%	101.1%	106.1%	108.7%
大粒大麦 (二条大麦)	上場数量(トン)①	7,620	7,450	7,620	6,880	7,810	10,070	10,450	10,510	11,080	13,170	14,310	14,320
	落札数量(トン)②	7,130	6,600	6,700	6,340	5,600	3,930	1,530	9,720	10,590	12,580	14,000	14,160
	落札率②/①	93.6%	88.6%	87.9%	92.2%	71.7%	39.0%	14.6%	92.5%	95.6%	95.5%	97.8%	98.9%
	落札価格(円/トン)	45,740	47,827	50,442	53,384	46,923	40,647	33,431	40,878	44,453	48,979	53,844	59,913
	対前年産比	106.7%	104.6%	105.5%	105.8%	87.9%	86.6%	82.2%	122.3%	108.7%	110.2%	121.1%	111.3%
はだか麦	上場数量(トン)①	2,890	2,740	2,660	2,570	2,330	2,140	2,930	2,230	1,850	2,470	2,750	2,700
	落札数量(トン)②	2,810	2,520	2,600	2,470	2,090	1,980	1,100	1,010	1,250	2,270	2,660	2,590
	落札率②/①	97.2%	92.0%	97.7%	96.1%	89.7%	92.5%	37.5%	45.3%	67.6%	91.9%	96.7%	95.9%
	落札価格(円/トン)	47,712	46,547	48,527	52,876	50,817	46,532	45,169	38,397	35,313	35,108	37,927	41,629
	対前年産比	96.1%	97.6%	104.3%	109.0%	96.1%	91.6%	97.1%	85.0%	92.0%	99.4%	107.4%	109.8%

資料：一般社団法人全国米麦改良協会調べ。

注：価格は、税込み（平成26年産までは5%、平成27年産以降は8%）である。

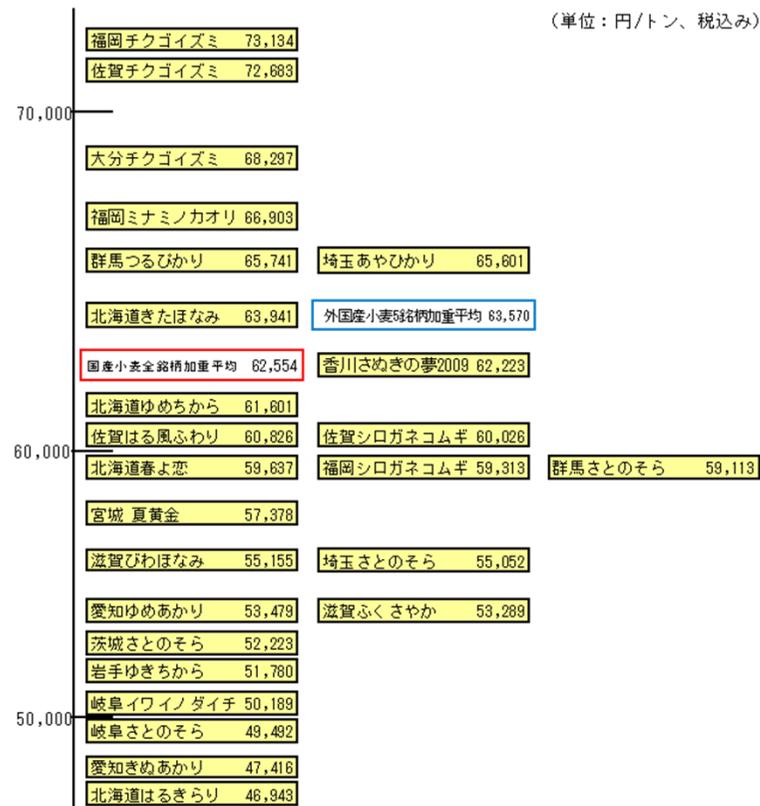
ただし、令和元年産以降の落札価格は、一般社団法人全国米麦改良協会公表の価格（税抜き）を基に農林水産省で税込み価格を算出。

## (2) 令和8年産国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格の動向

令和8年産国内産食糧用小麦の入札結果をみると、産地別銘柄別の需給状況等を反映して落札価格に差が生じています。

日本麺用の北海道産「きたほなみ」は63,941円/トン（基準価格対比109.6%、前年産対比102.7%）、香川県産「さぬきの夢2009」は62,223円/トン（基準価格対比110.0%、前年産対比103.1%）となりました。また、パン・中華麺用の北海道産「ゆめちから」は61,601円/トン（基準価格対比107.3%、前年産対比100.6%）、北海道産「春よ恋」は59,637円/トン（基準価格対比90.4%、前年産対比84.7%）となりました（図Ⅲ-5、図Ⅲ-6）。

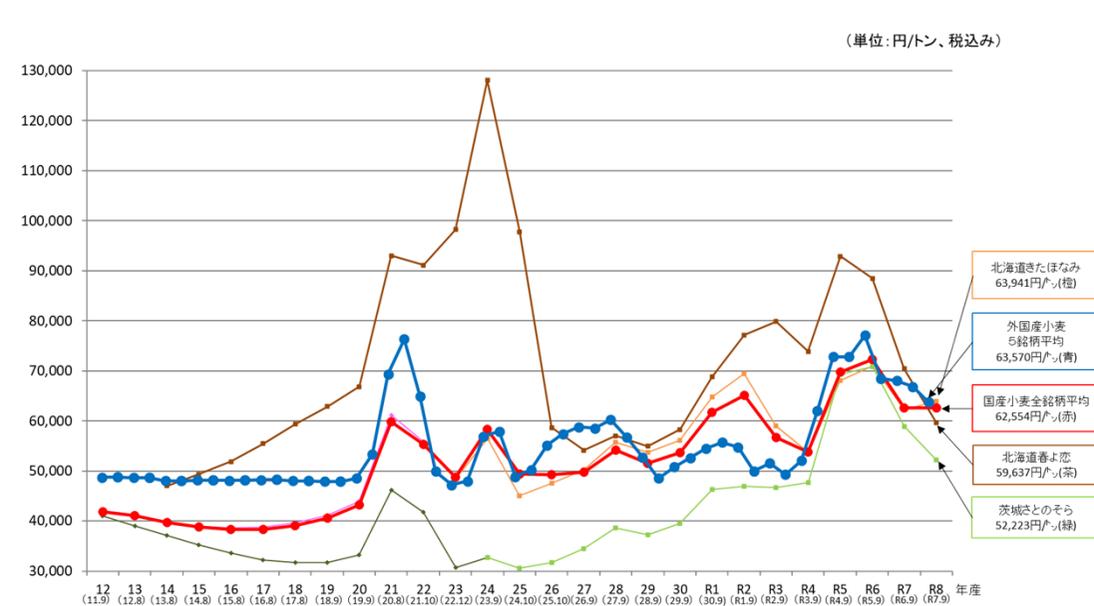
図Ⅲ-5 令和8年産国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格



資料：農林水産省調べ

注：外国産小麦5銘柄加重平均価格は、令和7年4月期の輸入小麦の政府売渡価格である。

図Ⅲ-6 国内産食糧用小麦の産地別銘柄別落札価格の推移



資料：農林水産省調べ

注1：国内産小麦の価格は、（一社）全国米麦改良協会が実施する民間流通麦にかかる入札の落札加重平均価格（税込み）。年産の下段の（ ）内は当該第1回入札の実施年月である。

注2：外国産小麦の価格は、18年までは当該年度平均の実績価格であり、19年以降は輸入小麦の政府売渡価格（8年産国産小麦の入札実施時期である令和7年4月期まで記載）である。

注3：きたほなみについては、22年産までは「ホクシン」の価格であり、23年産からは「きたほなみ」の価格である。

注4：さとのそらについては、23年産までは「農林61号」の価格であり、24年産からは「さとのそら」の価格である。

## 6 国内産麦の新品種の育成状況

(1) 国内産麦については、縞萎縮病抵抗性や耐倒伏性を備え、需要者等のニーズに合った新品種の開発が進められています。また、作付け面積が1万haを超える「きたほなみ」「ゆめちから」「さとのそら」をはじめ、多数の品種が生産現場に導入されています(図Ⅲ-7)。

小麦品種「きたほなみ」「ゆめちから」及び「さとのそら」は、優れた栽培特性と加工適性を備えており、作付けが拡大しています(令和5年確定値:「きたほなみ」約9万ha、「ゆめちから」約2万1千ha、「さとのそら」約1万5千ha)。

(2) 今後とも、赤かび病抵抗性や穂発芽耐性が高い小麦品種、小麦粉の色相や製粉性が優れる日本麺用小麦品種、パンの膨らみがカナダ産「1CW」並の小麦品種、食用・醸造用・味噌などの加工適性が高い大麦品種等の開発を推進します。

### ※パン用小麦品種の開発

近年、国産の小麦粉を使ったパンの需要増加に応えるため、平成29年にパン生地力が強く、穂発芽耐性や赤かび抵抗性が改良された「夏黄金」、平成30年にはタンパク質含量が高く、パン生地力が強い「はるみずき」、穂発芽耐性が優れ、製パン性が輸入小麦並みに優れる「はる風ふわり」が育成されました。

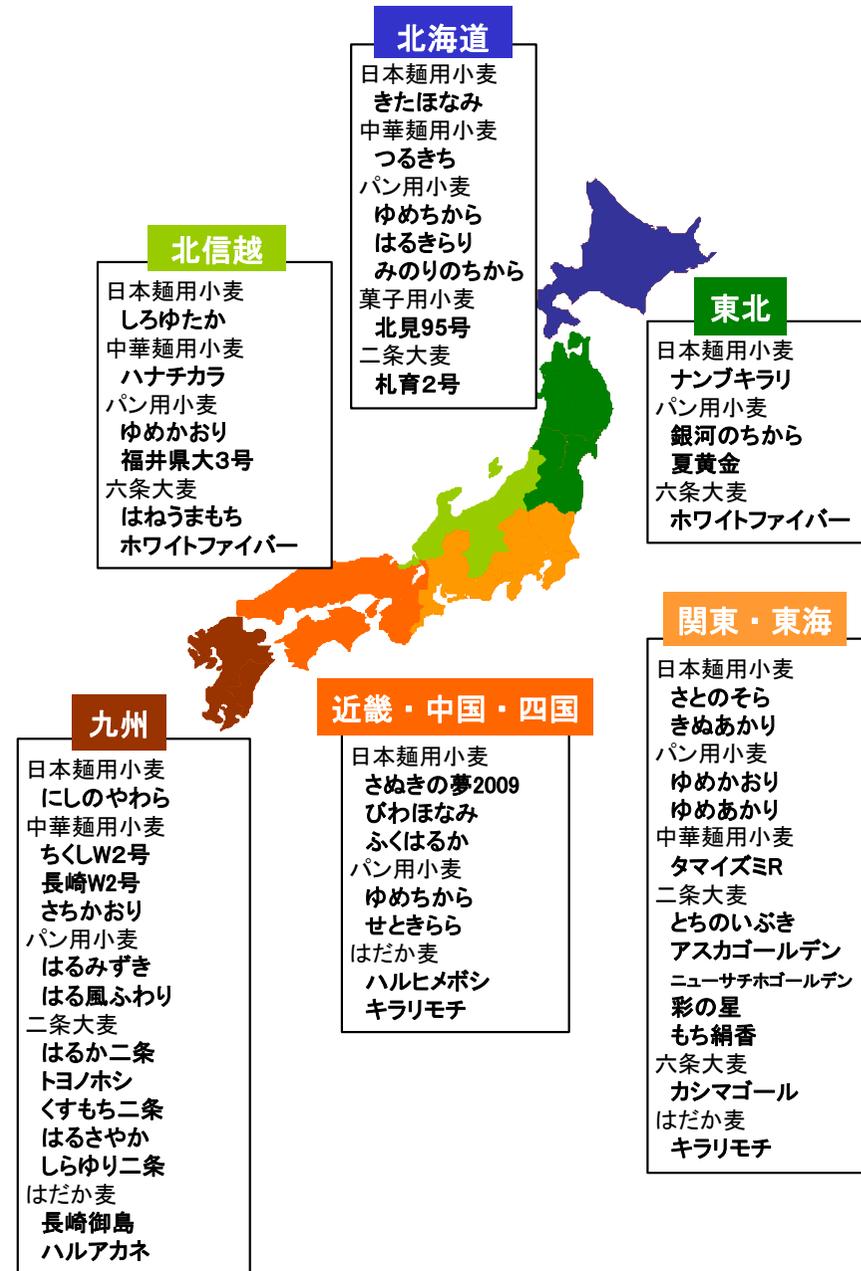
### ※日本麺用小麦品種の開発

製粉性や製麺性に優れる高品質な日本麺用品種の需要の高まりに応えるため、平成29年に製粉性と製麺性が高い「びわほなみ」、平成30年に麺の老化遅延効果を持つ「にしのやわら」が育成されました。

### ※用途に応じた大麦品種の開発

機能性成分β-グルカンを多く含むもち性大麦の需要の高まりに応えるため、平成28年に「はねうまもち」が育成されました。また、高品質なはだか麦の需要増加に対応して、令和元年に精麦白度が高い「ハルアカネ」が育成されました。

図Ⅲ-7 平成18年以降に育成された麦類の主な新品種※



※新品種のうち、令和5年産で概ね100ha以上作付けされていると推定される品種を選定(農林水産省調べ)。

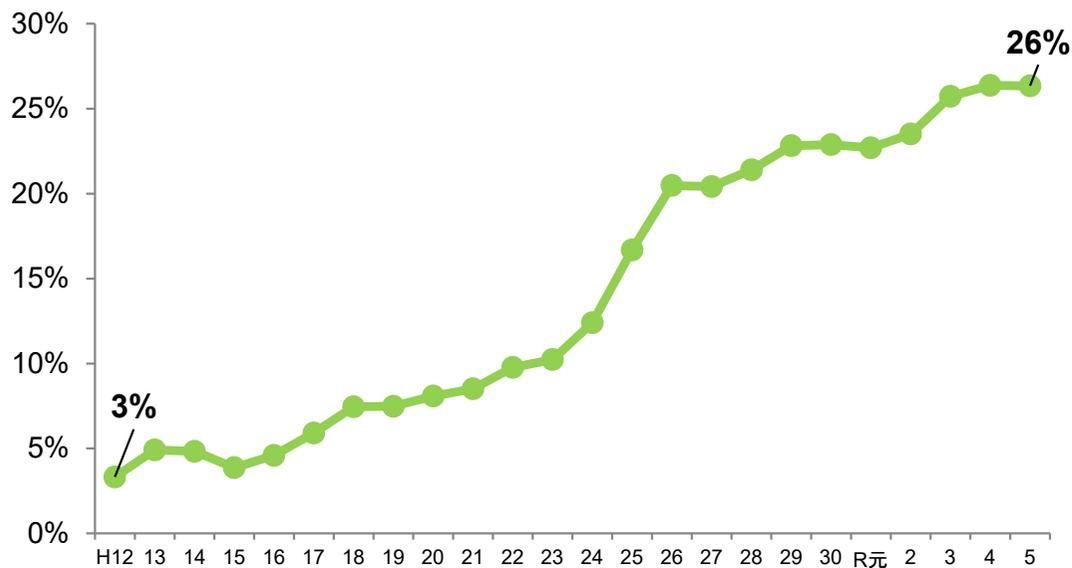
## 7 国内産麦を利用した製品の動向

小麦の食料自給率は、令和5年度には18%まで拡大しているものの、依然として国内消費の8割以上は輸入に依存している状況です。

一方、地球規模での気候変動の影響による食料生産の不安定化や国内産麦の品質向上等により、消費者の国内産小麦に対する注目も高まっています。

近年、国内産小麦においては、加工適性等に優れた優良な品種の開発や普及が進んだことにより、国内産小麦を使用した麦製品も増えてきており、国内産小麦100%使用をうたう商品を販売している事例もあります（図Ⅲ－8）。

（参考）パン・中華麺用小麦の作付比率の推移



資料：農林水産省調べ

## 図Ⅲ－8 国内産小麦の活用事例

- **シマダヤ株式会社**  
国産原料の積極的な採用に取り組んでおり、国産原料を使用することにより、国内の農家を応援し、輸入に使われるエネルギーを削減。このため、家庭用チルドの主力商品や新商品にも積極的に国産小麦粉を使用。
- **東洋水産株式会社**  
北海道産小麦を100%使用したチルド麺や、北海道産小麦のゆめちからときたほなみを配合したちぢれ麺を発売。
- **敷島製パン株式会社**  
「食料自給率低下の解決」に貢献していくため、国産小麦を使ったパンづくりに取り組み、2030年までに国産小麦の使用比率20%をめざす。帯広畜産大学と包括連携協定を結び、国産の原材料を使ったパンの研究・開発を協働で行うほか、人材の育成や交流を実施。
- **フジパングループ本社株式会社**  
国産素材の使用をすすめ、食料自給率の向上に取り組むため、国産小麦を使用した食パンを販売。
- **セブン-イレブン・ジャパン株式会社**  
国産小麦を使用したパンを販売。また、国産小麦を使用した中華麺やうどんを毎日製麺。
- **イオン株式会社**  
北海道産小麦100%の生ラーメンや国産小麦を使用したふんわりマフィン、国産小麦の厚切りバウムクーヘンを発売。
- **リンガーハットジャパン株式会社**  
2009年10月より全店で、野菜を100%国産化。その後、麺に使う小麦も国産化、ぎょうざ主原料も全て国産への切替えを実施。
- **株式会社王将フードサービス**  
主要食材（豚肉、キャベツ、ニラ、にんにく、生姜、小麦粉）はすべて国産を使用。特に小麦粉は北海道産と産地にまでこだわり。

※各社ホームページから抜粋

## 8 国内産麦の需要拡大イベント及び情報発信の取組

近年、生産者と実需者等が連携し、国内産麦を使用した製品が数多く開発・販売されており、各地でイベント等の需要拡大の取組みが行われております。

また、農林水産省としては、令和7年度、産地と実需のマッチング、食品関連企業等が行う国内産麦を活用した新商品の開発、試作、製造するために必要な取組を支援する「麦・大豆利用拡大事業」を一般社団法人全国米麦改良協会を実施主体として行っているところです。

農林水産省ホームページにおいて、国内産小麦の魅力についての情報発信を行うとともに、一般社団法人全国米麦改良協会においても需要拡大の取組み等が行われています（図Ⅲ-9）。

### 図Ⅲ-9 麦・大豆利用拡大事業

#### ○「麦・大豆利用拡大事業 試食会・商談会」

- ・開催日：令和8年2月18日～20日
- ・場 所：幕張メッセイベントホール（千葉県千葉市）
- ・内 容：  
令和6年度補正予算事業「麦・大豆利用拡大事業」の一環として行われた国内産麦・大豆を使用した試作品の試食会・商談会の実施



#### ○「麦・大豆利用拡大事業試食会・商談会」で出品された試作品例

出展名 出雲の国小麦プロジェクト推進協議会

試作品 島根産小麦を使用したパン・菓子等

島根県産小麦100%のパン用小麦粉「出雲阿麦(赤)」、麵用小麦粉「出雲阿麦(白)」を使って作ったパン、菓子等。



出展名 株式会社おとうふ工房いしかわ

試作品 大麦とうふドーナツ 黒糖味

国産大麦、国産小麦を使用したドーナツ絹豆腐をたっぷり生地練り込み、しっとりとした食感に仕上げた。黒糖のkokのある甘みを生かした、やさしい味わいのドーナツ。



出展名 (一社) 瀬戸内麦推進協議会

試作品 畑のジェラート

お好みの食感で、冷蔵でも冷凍でも食べられる、大麦ジュレの新商品「畑のジェラート」。



出展名 つむぎや・土田物産株式会社

試作品 埼玉県小麦のお好み焼き

埼玉小麦・深谷ねぎ使用。小麦香る、旨みひろがる手焼きの冷凍お好み焼き。個包装1人前、便利なトレー付。



出展名 株式会社みまさかフード

試作品 BE:MUGI もち麦パックごはん

岡山県美作市産のお米ともち麦（フクミファイバー）を使用した、「もち麦ごはん」。



出典：「スーパーマーケット・トレードショー2026」フライヤーより抜粋

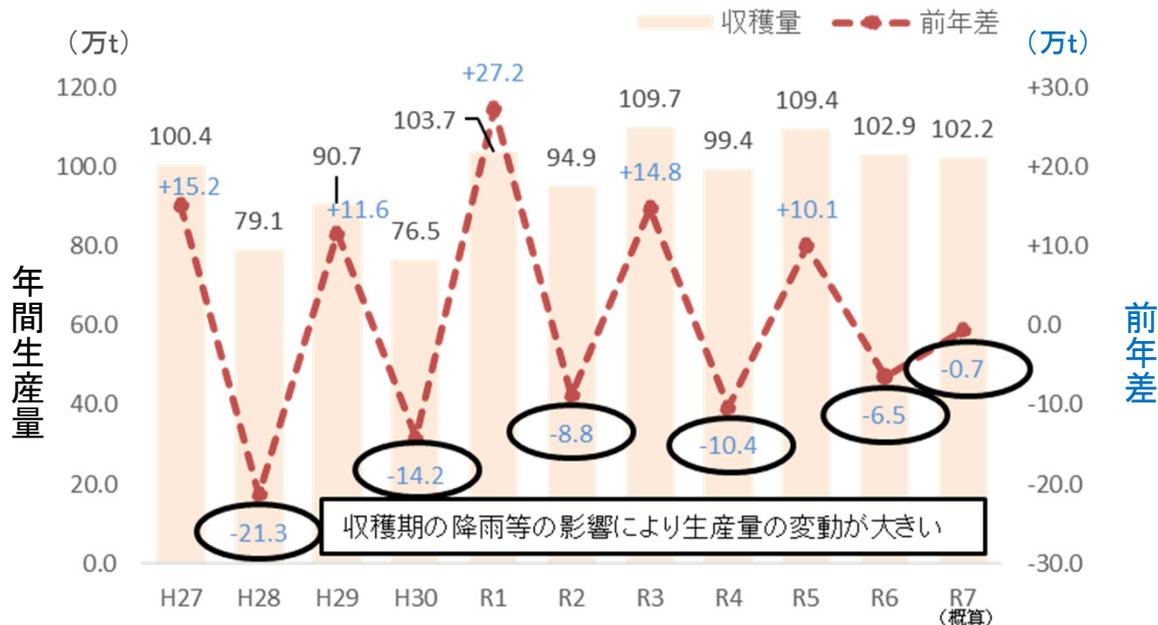
## 9 国内産麦の供給を円滑化するための取組

食料安全保障の重要性が高まる中、国内産麦については、食料自給率向上の観点から、需要を捉えた生産拡大とともに、生産拡大に伴う物流機能の確保を図る必要があります。

また、麦の生産は天候等による豊凶変動が大きく（図Ⅲ－10）、実需者は不作時の安定供給に対する不安や豊作時の需要を超えた際の流通への対応を行う必要があります。

このため「麦類供給円滑化推進事業（令和7年度補正予算）」により、麦の安定供給体制を構築し、供給を円滑化するための産地や実需者等による運搬や保管等の物流機能の確保を支援しています（図Ⅲ－11）。

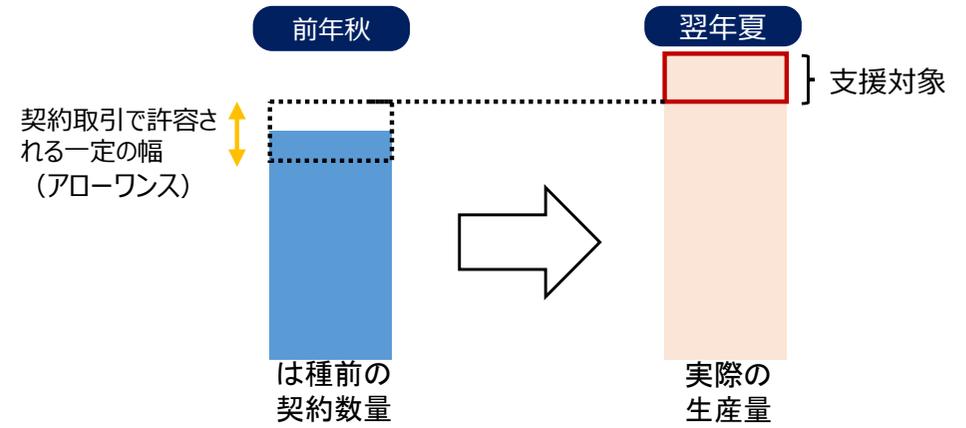
図Ⅲ－10 国内産小麦の生産量



資料：作物統計

図Ⅲ－11 麦類供給円滑化推進事業

### <契約超過麦支援スキーム>



※国内小麦については、収穫の前年に生産者と実需者との間で取引数量・価格について決定し、契約（は種前契約）。

【対象経費】保管経費、運搬経費、荷役経費、くん蒸経費

### <産地収容力確保支援スキーム>



【対象経費】保管経費、運搬経費、荷役経費、くん蒸経費